

# 朝日小学生新聞

「わらわ」の由来

5面 学校新聞コンクール

8面 科学探偵vs.超自然現象

ゆればわかる  
2面  
7月に噴火した山の名前は?




## 人口が増え続けるインド



来年も世界一の国連の予測

インドの人口が早ければ来年も中国をぬいて世界最多になりそうだと先月、国連の報告書「世界人口予測」で発表されました。大きく変わっているインドについて、南アジアの歴史に詳しい東京大学名誉教授の水島司さんに聞きました。(編集委員・市川博正)



デリー首都圏にある城の前の広場で、「国際ヨガの日」にヨガをする人たち=8月21日 写真はどちらも©朝日新聞社

国連の報告書によると、今年1月時点の推計人口は中国が1位で14億2600万人、2位がインドで14億1200万人。早ければ来年7月にもインドが14億2900万人でトップになり、2050年には16億6800万人になると予測しています。

インドの人口を調べる国勢調査は10年に1度。11年の調査で人口は12億1千万人でした。21年にも調査が行われるはずでしたが、新型コロナウイルスの影響で23年に延期されています。

人口が増え続ける理由について、水島さんは「全国的に医療体制が整って、乳幼児の死亡率が低くなったことが大きいでしょう」

### 医療が整い、乳幼児の死亡率下がる

平均寿命がのびていることも影響しているといえます。インド政府の資料によると、76〜80年の平均寿命は52.3歳でしたが、2001〜05年は64.6歳と大幅の伸びました。さらに、世界保健機関(WHO)の統計では、19年時点で70.8歳になっています。

寿命ののびた背景には「緑の革命」とよばれる農業政策の成功がありました。穀物を輸入にたっていたインドは、1960年代に食糧不足になりました。これをきっかけに、地下水などを利用するかんがい施設を整え、米や麦などさまざまな農作物を生産するようになって農業大国になりました。

80年前後に現地の村に住んで研究したときには、水島さんたち研究者も肉や卵が手に入らない状況でしたが、今は街にショッピングセンターがあります。

「緑の革命」で長生き

**インド どんない国**

面積 328万7469平方キロメートル (日本の約8.7倍)

首都 ニューデリー

言語 連邦公用語はヒンディー語。憲法で定められている州の言語が21言語

宗教 ヒンドゥー教やイスラム教など

通貨 ルピー

主な産業 農業、工業、IT産業

### 合計特殊出生率は低下／貧富の差が小さく

水島さんは「貧しい州でも、子どもの数が2人前後という家庭が多くなりました。このまま人口が急激に増え続けていくことはないのでは」とみています。

18歳の時に初めてインドに行った水島さん。「日本とは、もの考え方や人との接し方も、まるきりちがう世界。どれほど研究しても分からないことが次々にわいてきます。それが一番の魅力で、おもしろい。心が柔軟な若い時に行ってみてほしい」と話しました。

「かつては貧富の格差がはげしかったですが、豊かな中産階級の人口が3割ほどにのびています」と水島さん。食べるのに困るような貧しい人が減っているのです。

ただし、1人の女性が産む子どもの数は減っています。国勢調査によると、1人の女性が生涯に産む見こみの子どもの数を表す合計特殊出生率は71年の5.2から2011年は2.4と半分以下になりました。



首都ニューデリーにあるショッピングモール=8月